

関係団体・機関に対する意見聴取のまとめ

【ご意見をいただいた関係団体・機関】

若者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市ひきこもり相談支援センター（ささえあいコミュニティ生活協同組合新潟） ・新潟地域若者サポートステーション（労働者協同組合労協センター事業団）
不登校支援	<ul style="list-style-type: none"> ・第一学院中等部新潟キャンパス★ ・フリースクール ロビオキ★ ・元気カレッジフリースクールあきは★ ・オルタナティブスクール WALK★ ・不登校アドバイザー ナイチンゲール ・NPO法人OHANA（不登校支援・こども食堂運営等）
自主夜間中学校	・新発田自主夜間中学校（一般社団法人新潟県新発田市に夜間中学校をつくる会）

★印は、新潟市フリースクール等連携協議会に加盟しているフリースクール

【主なご意見】

No.	関係団体・機関からのご意見	新潟市教育委員会事務局の考え方
1	【学校が目指す姿・学校づくりの視点】 事情があって学校生活を送ることができなかった方々が、学び直しができる環境は需要があると思う。また、働きながら、無償で学び直しができる環境が整うことは、良いことである。	様々な背景をもち、悩みを抱えている方の入学が想定される夜間中学は、義務教育の機会を提供する場としての役割に加え、生徒が安心して過ごせる居場所となり、社会とつながる場所としての役割を果たすことも重要であると考えています。新潟市が設置する夜間中学がそうした役割を果たせるよう、引き続き、具体的な学校の仕組みづくりを進めていきます。
2	【学校が目指す姿・学校づくりの視点】 中学校卒業後に「在家」になっている人や、高校を中途退学した人にとっての居場所や社会とつながる場所として、また、保護者の相談窓口としての役割が期待できる。心の回復の場としても期待している。	
3	知識を習得するだけの学校ではなく、生徒同士が、お互いを応援し合ったり助け合ったりするような温かな人間関係で結ばれ、「学校に行きたい」という思いを卒業まで持ち続けられるような学校を目指してほしい。	
4	【入学対象者】 不登校、ひきこもり、ヤングケアラー、外国籍、発達特性の理解が不十分だった頃に勉強に難を感じていた人など、学びを必要としている方を幅広く対象にしてほしい。	生徒の受け入れにあたっては、一律の基準だけで判断せず、一人一人の事情を丁寧に確認しながら、可能な限り柔軟に判断していく予定です。
5	【入学対象者】 「夜間なら通える」という不登校の学齢生徒にとって、夜間中学は新しい学びの場になり得る。不登校の学齢生徒も通えるようになることを期待している。	不登校には様々な要因があるため、対応のあり方については幅広い視点からの一体的な議論が必要です。不登校の学齢生徒に対して夜間中学が果たす役割は、今後、新潟市の不登校対応の全体的な方針を議論していく中で、検討していきたいと考えています。

No.	関係団体・機関からのご意見	新潟市教育委員会事務局の考え方
6	<p>【入学時期】</p> <p>入学時期は、もう少し、柔軟な対応があってもよいのではないかと。年2回の受け入れの場合、時期によっては入学までに時間がかかり、タイミングを逃してしまう人が出てしまうのではないかと。</p>	<p>生徒一人一人の学習状況や、日本語の習得状況などを入学前に丁寧に把握し、必要な準備を行ったうえで受け入れることが望ましいと考えており、状況把握や準備のための十分な時間を確保する観点から、夜間中学の開校当初は、年2回の受け入れにしたいと考えています。</p>
7	<p>【修業年限】</p> <p>生徒の年齢や体力の幅があることを考慮し、小学校6年＋中学校3年の9年間の修業年限、または「在学期間の延長制限を設けない」など、学習機会の十分な保障が必要だと思ふ。</p>	<p>他都市の先行事例を参考にし、修業年限の上限期間を最長6年としています。修業年限を含めた学校の枠組みは、生徒の状況を踏まえながら、開校後も、望ましいあり方を継続して検討していきます。</p>
8	<p>【教育課程】</p> <p>パソコンやタブレットの操作など、基本的な生活スキルも教えてくれると、助かる人がいるのではないかと。また、自己理解力やコミュニケーション力などを育てる授業や、キャリア教育、地域連携活動、外部講師を招いた学習なども、生徒の可能性を引き出す上で重要である。</p>	<p>学校での教育活動を通じ、生徒が豊かな社会生活を送るうえで必要なスキルや資質・能力を高めていくことは重要であると考えています。いただいたご意見や他都市での事例を参考にしながら、今後、具体的なカリキュラムを編成します。</p>
9	<p>【教育課程】</p> <p>通学しづらい地域に住んでいる人や、昼間に働いており授業開始に間に合わない人などが、オンラインで授業が受けられると良い。</p>	<p>対面での授業が基本となりますが、事情により毎日の出席が困難な生徒や、一部の授業しか出席できない生徒がいる場合は、オンラインによる授業配信の実施を検討します。</p>
10	<p>【教育課程・職員研修】</p> <p>授業方法や学習方法が合わずに学業不振になり、それが不登校の原因になっている学齢生徒がいる。「一人一人の習熟度に応じた学習内容」に加え、「一人一人の発達特性を考慮した学習方法」という視点も大切にしてほしい。</p>	<p>夜間中学の教職員として必要な資質や授業力、指導力の向上を図るため、計画的な職員研修を実施していく予定です。</p>
11	<p>【職員研修】</p> <p>学校のコンセプトから学級運営能力よりも、対象者に対しての見取りという能力が必要と感じる。見取りには、共感力の高さとコーチング的な技術と知識が必要だと思ふ。</p>	
12	<p>【保護者連携】</p> <p>生徒の年齢にもよるが、保護者との連携や保護者支援という観点も必要。不登校の保護者は子どもの現状や将来に対する漠然とした不安や焦りを抱えていることが多い。学校と家庭が同じ方向を向ける関係構築ができると良い。</p>	<p>夜間中学における保護者や家族との望ましい連携のあり方について、他都市の事例を参考にしながら検討します。</p>
13	<p>【通学方法】</p> <p>公共交通機関の利用しかできない生徒を想定し、スクールバスの運用などの一定の通学に関する配慮・支援が必要だと思ふ。</p>	<p>バス等の公共交通機関の時刻に配慮した校時表を検討するなど、少しでも生徒が通学しやすい環境整備に努めます。</p>
14	<p>【通学方法】</p> <p>不登校経験者が家族から車で送迎してもらった場合があることを想定に入れてほしい。本人にとって期待と不安が入り混じるので、心理的ハードルを下げる必要があると思ふ。</p>	<p>設置基本計画には「家族の送迎」について明記していませんが、学校説明会等の際に、家族による送迎は可能であることを周知していきます。</p>

